

久留米(福岡)⇔九重高原(大分)の標高差を利用した周年出荷体制

【経営の概要】

- 所在地 : 福岡県久留米市
従業員 : 正職員10名、パート10名、内職10名、外国人8名(特定技能2人(フィリピン)、技能実習6名(ベトナム))
栽培品目 : ハーブ野菜4ha(久留米2.5ha、大分1.5ha)

ポイント

- ☆ 久保田園芸は、4代続く野菜農業者。久留米の圃場(冬春)と、標高900mの九重高原の圃場(夏秋)で季節ごとに圃場を変えてリレー栽培を行うことで、周年出荷体制を確立。

【農業振興】

- ・ 久保田園芸は、初代が稲作の裏作としてほうれんそう栽培に取り組んだことが野菜作のはじまり。二代目が大葉栽培に取り組んでいたが、三代目が、将来的な外食需要の増加を見込んでハーブ栽培に取り組む。四代目も3年前に就農。
- ・ 11月-3月期は久留米、4月-11月期は九重高原で栽培し、周年出荷体制を確立。
- ・ 品目は、ミント、バジル、コリアンダーの他、パセリなど。
- ・ ハーブ野菜は単収が良く、小ロット輸送が可能。北海道、関東、関西、広島、沖縄へ出荷、市場出荷は7割。1年前から農福連携にも取り組む。

【外国人材】

- ・ 10年前から外国人材を採用。最近では、外国人材に日本語を覚えてもらい。フィリピン人からベトナム人への栽培技術への伝承は当人同士に日本語で行ってもらっている。
- ・ 外国人材はハーブ栽培の栽培管理、調整、草取り、選別、収穫、出荷作業に従事。

【その他】

- ・ 今後は、現在の経営規模の維持を念頭に経営を行うこととしている。



(有)久保田園芸本社屋



作業風景

出荷業から農業参入

【経営の概要】

所在地 : 福岡県久留米市
従業員 : 職員30名(うち特定技能3名、技能実習8名、出身国は、フィリピン、中国、カンボジア)
栽培品目 : ほうれんそう、小松菜 10ha、オクラ 50a

ポイント

☆ 丸善青果は、35年前に先代が出荷業を創業。現在は2代目。以降、「民間農協」(地域の野菜を集荷し、市場等に出荷)のような役割を担っていたが、ロットが集まらなくなったことから、3年前に農業参入。

【農業振興】

- ・ 丸善青果は地域の「民間農協」の役割を担い、出荷業を行っている。かつて、地域に400人いたほうれんそう農業者が近年では300人まで減少したことにより、ロットが集まらなくなったことを受け、3年前から自ら営農(品目:ほうれんそう、小松菜)に乗り出した。
- ・ ほうれんそうは、単価が良く経営的に手堅い品目。
- ・ 出荷業を長年行ってきたことから農業者とのつきあいは深く、ほうれんそう栽培のノウハウは熟知していたこともあって、周囲の耕作放棄地を集めて、当初から10haの経営規模で就農。
- ・ 東京や大阪方面への市場出荷が中心。
- ・ 夏場の高温、豪雨などの気候変動や、野菜のべと病などに苦労しながらも、今後の更なる経営規模拡大を図る。

【外国人材】

- ・ 農業参入前(15、16年前)から外国人材を活用していたこともあって、ノウハウはすでに持っていた。
- ・ 外国人材は、ほうれんそうの栽培管理や収穫、出荷作業に従事。
- ・ 外国人材は、就労意欲が極めて高く、残業も自ら申し出るほど。
- ・ 新型コロナウイルスの影響により帰国困難な外国人材は在留資格変更(特定活動)で対応した。



特定技能外国人作業風景1



特定技能外国人作業風景2

マーケットイン型農業で多品目栽培

【経営の概要】

所在地 : 長崎県島原市

従業員 : 日本人12名、外国人8名(うち特定技能2名、出身国ベトナム)

栽培品目 : にんじん20ha、たまねぎ5ha、ばれいしょ1ha、ミニトマト0.5ha、かぼちゃ、スイートコーン

ポイント

☆ 古川商店は、自ら農業も営む出荷会社。量販店や大手生鮮通販など需要側からの注文(品目、品質)に対応する形で多品目栽培。

【農業振興】

- ・ 古川商店は、50年前に創業。当初は、ばれいしょを栽培。二代目がにんじんを栽培。現在、三代目。周辺の農家を束ねる出荷業も営む。
- ・ 需要側の希望する品目・品質を関係農家に伝えて、生産者側と需要側のコーディネートを行うと同時に、自らも要望に応じた作物栽培を手掛ける。主力は高糖度にんじん。
- ・ 栽培技術では、特に肥料に注力。土の違いに対応した作物づくりを心掛けている。
- ・ 量販店、生協、大手生鮮通販などへ出荷。

【外国人材】

- ・ 労働力不足から、5年前に外国人材を活用。栽培技術のテキストを外国人に与えて、覚えてもらうよう外国人教育にも注力している。結果、技能実習3号生や特定技能へ移行して在留期間を延長する外国人材も出て来るようになった。
- ・ 外国人材は、作付、定植などの栽培管理や収穫、出荷作業に従事。
- ・ 寮を完備。Wifiも付けて、生活の利便性向上も考慮している。



特定技能外国人作業風景1



特定技能外国人作業風景2

大手外食産業との契約栽培で大規模栽培

【経営の概要】

所在地 : 長崎県雲仙市

従業員 : 日本人12名、外国人16名(うち特定技能9名、技能実習生7名。出身国カンボジア)

栽培品目 : レタス65ha、緑肥44.5ha、南瓜5ha

ポイント

☆ 松山ファームは、元々、青果物等集荷業を営み、夏季の雇用対策として雲仙市内でレタス農業を行っていた。雲仙の山間部に点在する非効率な圃場を集約、大規模化。

【農業振興】

- ・ 松山ファームは、現在、二代目が15年前に先代から20haの圃場を引継ぎ経営を開始。主力はレタス栽培。単棟ハウス面積13ha。(棟数250棟)
- ・ レタス栽培は、機械導入が合わない工程が多く、収穫は手作業。
- ・ 契約栽培は、品質や規格が一定水準でなければならず、苦勞している。
- ・ 大手外食産業へ出荷。

【外国人材】

- ・ 日本人は募集しても来ないため、15年前から労働力不足対策として外国人材を活用。当初は中国人。現在は、知り合いの伝手を活用してカンボジア人を採用。
- ・ 外国人材は、作付、定植などの栽培管理や収穫、出荷作業に従事。
- ・ 外国人材へは、昇給制度を採用。
- ・ 意欲の高い外国人材は、日本語学校にも通う。
- ・ 寮を完備。Wifiも付けて、生活の利便性向上も考慮している。
- ・ 現在、候補者は少ないが、将来的には、能力が高い外国人材は、職員として採用する計画も持っている。



特定技能外国人作業風景

東京→熊本Iターンの新規就農者

【経営の概要】

所在地 : 熊本県阿蘇市
従業員 : 外国人1名(特定技能1人(カンボジア人))
栽培品目 : 夏秋トマト 54a

ポイント

☆ 鰐川氏は、東京都出身の民間記念財団の元職員。仕事で訪れた熊本で現在の師匠(斉藤トマト塾の代表斉藤氏)の息子さんとの出会いがきっかけで9年前に阿蘇市で農業に新規参入した。元々、農業に関心があったことや農村暮らしへのあこがれ、家族の後押しも背景にある。

【農業振興】

- ・ 出会った師匠の元で学んだ新規参入者の先行事例を聞き、研修生として、トマト農業者になるための農業経営や栽培技術を学ぶ。
- ・ 0.16haの圃場で9年前に就農。資産無し・農機具、圃場無し、余所者ゆえの信用無しのナイナイ尽くしでの新規参入や気候変動による高温に伴うトマトのすすカビ病対策に苦労しながらも肥培管理や土づくりの栽培技術、規模拡大のための設備投資を軸とした農業経営に注力し、現在では0.54haまで規模を拡大。

【外国人材】

- ・ 経営規模拡大に併せて家族のみでの経営に限界があることが分かったため師匠の指導もあり4年前からカンボジア人を採用。
- ・ 外国人材は施設園芸の芽かき、誘引、収穫、出荷作業に従事。
- ・ 阿蘇地域は、JA阿蘇がカンボジアの送出国とつながりがあるためカンボジア人の外国人材が多い。
- ・ 当外国人に聞き取ったところ、滞在限界年数:5年、日本を選んだ理由:安全な国、礼儀正しい国民性、日本以外で働いてみたい国:韓国、日本生活で苦労している点:言葉など。



作業風景



左から通訳、特定技能外国人、鰐川氏

手作りチラシで農地を募集！ ～「大きな農業経営」をめざして～

【経営の概要】

所在地 : 熊本県宇城市

従業員 : 従業員6人(日本人)、パート3人、アルバイト1名、外国人7名(技能実習3人、特定技能4人)

栽培品目 : 水稲38ha、ブロッコリー25ha、小麦15ha、ミニトマト75a

ポイント

☆ 50年前に先代から農業(経営規模1.5ha(水稲、い草、プリンスメロン))を引継ぐと同時に、「大きな農業経営」の実現に向けて、新聞折込の手作りチラシで近隣農家に対して農地を募集。

八代市の友人農家から外国人材の活用を口コミで教えてもらう。

【農業振興】

- ・ 経営者の宮崎氏は早くに父親を亡くし、祖父と母親が営農していた1.5haの圃場を高校卒業と同時に引き継いだ。もともと農業が好きだったことと長兄からの推薦があったことが背景。
- ・ 「大きな農業経営」を目標に、新聞折込の手作りチラシで近隣農家から農地を募集。当初は、狭隘地や水が近くに無い条件不利地等しか集まらなかったが地道な継続が功を奏してチラシ配布から3年後には近隣農家から相対で耕作放棄地等の相談を受けるようになり、以降はチラシを配布しなくても自然と農地が集まるようになった。

社会的信用向上のため平成6年に法人化。

- ・ 米やブロッコリーは仲介業者へ出荷。麦、トマトはJAへ出荷。

【外国人材】

- ・ 八代市の友人農家から外国人材の活用を教えてもらい、6年前からミャンマー人を採用。ミャンマー人は送出機関でN5レベルの日本語を習得しているうえ、英語も可能。労働意欲が極めて高い。ベトナム人3名も受け入れている。
- ・ 外国人材は施設園芸の芽かき、誘引、その他作業に従事。
- ・ 熊本地震の影響で、日本人材の多くは建設業に採られて、農業には来なくなったことも背景。

【スマート農業】

- ・ ドローン2台を使って、圃場における農薬散布に活用。ドローン操作担当も採用。



作業風景(ハウスのビニール掛け)

更なる経営規模の拡大を目指しつつ、カンボジアで送出機関も経営

【経営の概要】

所在地 : 熊本県八代市

従業員 : 従業員5人、パート2人、外国人(技能実習5人、特定技能2人)

栽培品目 : ブロッコリー40ha(2作/年)、水稻30ha、馬鈴薯16ha、キャベツ5ha

ポイント

☆ 40年前に先代から農業(経営規模2.3ha)を引継ぎ、その後、近隣の後継者不在農業者の圃場を取り込みながら徐々に規模拡大。

カンボジアで送出機関を運営していた知人(日本人)の後を受け継いで送出機関も経営。

【農業振興】

- ・ 水稻の裏作としてキャベツを栽培していたが、根こぶ病などの連作障害があるためブロッコリーを主品目に変更。ブロッコリー(7月-5月)でほぼ周年作業。7月からは種馬鈴薯の選別。堆肥ともみ殻を混交して圃場に投入し、地力回復にも努めている。

【外国人材】

- ・ 露地野菜は栽培や収穫作業に手間がかかるため5年前からカンボジア人実習生を採用。
- ・ 外国人材の作業は播種、栽培管理、収穫、出荷作業まですべてに及ぶ。周年作業。
- ・ 特定技能外国人は、日本で運転免許を取得するなど意欲的。実習生のリーダー格となる。

【外国人材の労働待遇】

- ・ 県職OBの普及員を指導役として雇い、週1回、勉強会を開いて外国人材へ栽培技術等を指導。在留期間満了後は、外国人材に対し、カンボジアでの職業紹介を実施。

【カンボジアの送出機関を運営】

- ・ カンボジアで送出機関を運営していた知人から要請を受けて当送出機関の経営を引き継いだ。(スタッフ:日本人2名、現地人5名)今後は、監理団体の経営も予定。

【スマート農業】

- ・ 今後は、ドローンを使って、圃場における肥料の分布の濃淡を画像分析する予定。



経営者のお二人



実習生と特定技能外国人の皆さんと

外国人材で安定経営

【経営の概要】

所在地 : 熊本県八代市
従業員 : パート2人(日本人)、外国人2名(特定技能・フィリピン人)
栽培品目 : ミントマト 80a

ポイント

☆ 先代から農業(経営規模1ha)を引継ぎ、施設園芸を開始。当初は、農業労働力としてシルバー人材を活用していたが、同人材の高齢化に伴い、夏の高温時には作業が出来ないなど作業時間の制約が多くなったため6年前から外国人材採用に踏み切り、安定経営を目指している。

【農業振興】

- ・ 先代は、経営規模1haのい草農業者(44年前に施設園芸に変更)。経営を引き継いだ後、面積を(0.4ha)拡大した。
- ・ 丸トマトを栽培していたが、ミニトマトに品種を変更。ミニトマトは、丸トマトよりも個体が小さいため栽培管理にあたり、誘引作業など負担が少ないことが理由。
- ・ 施設園芸はハウス建設費など施設への経費が掛かるため経営規模拡大よりは、現在の規模での安定経営を志向している。

【外国人材】

- ・ 八代地域は農業分野の外国人材受入れが盛んで、周囲の同業者から外国人材の働きぶりの評判を聞いて、採用に踏み切った。
監理団体とつながりがある送出国機関がフィリピンにあったため、現地での面接を経由しフィリピン人を採用。
- ・ 外国人材は施設園芸の芽かき、誘引、出荷作業等に従事。
- ・ フィリピン人の外国人材は、明るい性格で、近所の外国人材とも交流し、仲間同士で喧嘩などすることもない。働いて得た賃金を母国の家族に送付するなど家族思いで農作業も粘り強く行う。
- ・ 採用した外国人材のうち1人は農家出身。そのため農作業が早い。



作業風景(支柱の固定作業)